

第 13 回 関東甲信越地区技術職員懇談会のご案内

国大協関東甲信越地区の大学・研究所の技術職員の技術交流を深めるために、昨年この懇談会を発足させました。技術の共有、技術協力、技術研修の共用などのつながりが深まることを目指しています。多くの技術職員のみなさまにご参加いただき、それぞれの仕事のご紹介や各機関の技術職員の話題をご紹介いただいております。開催は毎月第 2 週の金曜日です。

<https://www2.kek.jp/engineer/tsukuba/kondan/>

記

日時：2023 年 11 月 10 日（金）16:00 ～

接続：zoom

https://zoom.us/meeting/register/tJwocuCsqDkvE9PHU31PKizFtNzbF1LG5WN_

講演：

1. 横浜国立大学 工学研究院等 技術部 技術長 高橋 龍太郎 氏
「工学研究院等技術部における業務の紹介」

横浜国立大学工学研究院等技術部の構成及び業務について、技術協力依頼業務と広報室業務の話を中心に紹介させていただきます。

2. 高エネルギー加速器研究機構 加速器研究施設 内山 隆司 氏
「エネルギー回収型線形加速器 (ERL) のための高輝度電子銃および入射部の極高真空システムの構築」

エネルギー回収型線形加速器(ERL)を利用することで、大強度の極紫外光自由電子レーザー (EUV-FEL) を実現できる可能性があり、その実証に向けた加速器要素開発、ビーム試験がコンパクト ERL(cERL)で進行中である。ERL の特性を最大限に生かすためには低エミッタンスかつ大電流のビームの供給が必要となり、ビームの長期的・安定な供給のためには電子銃と直下の入射部を 10^{-10} Pa レベルの極高真空状態で常に保持することが不可欠となる。電子銃と入射器超伝導空洞の間の区間である入射部は限られた狭小スペース(1121 mm)であり、バンチャーを含み多くの機器を収める必要があった。これらの徹底したアウトガスの低減化、適切な排気機器の選択と配置により電子銃および入射部において

10⁻¹⁰ Pa レベルの極高真空状態を実現した。また、電子銃および入射部の極高真空状態の長期間(2012～現在)の維持を実現し多くの実験に貢献している。

懇談の時間：

ご講演終了後は、**zoom** のブレイクアウトルームを用意しております。各講演者を囲んでの懇談で、交流を深めていただければと思います。

以上

関東甲信越地区技術職員懇談会世話人会

(今後のお知らせ)

第 14 回 関東甲信越地区技術職員懇談会のご案内

記

日時：2023 年 12 月 8 日（金）16:00 ～

接続：**zoom**（後日ご案内いたします）

講演：

1. 新潟大学 工学部 永田 向太郎 氏
「パイプオルガン模型の製作と活用」

りゅーとぴあ新潟市芸術文化会館と作り上げた、小型パイプオルガン模型について報告します。パイプオルガンの基本的な機構を備え、かつ構造や動作が見えるよう透明アクリルを多用した模型となっています。また模型を用いたオルガン普及活動や、製作の経験を生かした工作教室への応用についても紹介します。

2. 筑波技術大学 小貫 美奈 氏

以上。

「拡大懇談会」

日時：2023年12月15日（金）16:00～

接続：zoom

<https://zoom.us/meeting/register/tJUvfu6qqj8qE9zLdDGbMKPmYLjLI90UpG5D>

講演：

東京工業大学 オープンファシリティセンター マイクロプロセス部門
部門長 松谷 晃宏 氏

「テクニカルコンダクターと TC カレッジ
～マイクロプロセスコースの事例を中心として～」

東工大ではコアファシリティ構想における高い技術力・研究企画力を持つプロフェッショナルな高度専門職人材をテクニカルコンダクター（TC）として認定する称号制度を導入した。TCを養成するため「TCカレッジ」をオープンファシリティセンターに設置して、学内外の受講者にカリキュラムを提供している。令和4年度末には初めてのTCが4名誕生した。本講演ではマイクロプロセスコースの事例を中心に、TCカレッジの概要と現状について紹介する。
